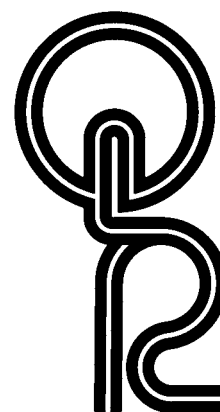


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 30 No.3, 2023



変形構造を持つ砂質潮汐干潟堆積物（更新統池田層上部：北海道・幕別町）
露頭の高さ：約4m（提供：卜部厚志・高清水康博）

Vol. 30 No. 3

August 1, 2023

2023年大会案内（第5報）..... 2	執行部会議事録.....11
総会・評議員会のお知らせ..... 8	評議員会議事録..... 12
学会賞等選考報告..... 8	紙碑..... 19
会費WEB決済のご案内.....11	会員消息..... 20

◆日本第四紀学会 2023年大会案内 (第5報)

1. 全体概要

開催会場：早稲田大学所沢キャンパス (〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15)

最寄り駅：西武池袋線 小手指駅 (池袋駅から急行で約30分)

駅から無料スクールバスまたは路線バスで約15分

<https://www.waseda.jp/top/access/tokorozawa-campus>

開催日程 (全期間)：2023年8月31日～9月4日

8月31日 (木) プレ巡検 評議員会

9月1日 (金) 一般研究発表 (口頭及びポスター)

9月2日 (土) 一般研究発表 (口頭及びポスター) 総会 懇親会

9月3日 (日) 午前 シンポジウム (一般公開/ハイブリッド形式)

午後 普及講演会 (一般公開/ハイブリッド形式) アウトリーチ巡検

9月4日 (月) 専門巡検

共催：早稲田大学人間科学学術院

後援：所沢市、所沢市教育委員会、公益財団法人トトロのふるさと基金

協力：早稲田大学自然環境調査室

2. 大会参加について

大会専用サイト (<https://sites.google.com/view/2023jaqua/>) から申し込んでください。

大会参加申込、事前昼食注文、懇親会申込締切 すべて8月25日 (金) 17時

大会参加費 会員：1,000円、非会員：2,000円、大学院生・学部学生 (会員・非会員問わず)、70歳

以上の会員および9月3日のみ参加する方：無料

事前昼食注文 (9月2・3日) 各日800円、懇親会参加費：6,000円

申込及び支払い方法など詳細は、大会専用サイトをご確認ください。なお、すでに一般研究発表、巡検申込は終了しています。

3. スケジュール・会場

8月31日 (木) 8:30～15:00 プレ巡検
16:00～19:00 評議員会 *

9月1日 (金) 9:00～受付開始
9:25～9:30 開会挨拶
9:30～11:45 一般研究発表 (O-01～08)
11:45～12:15 ポスターショートトーク (P01～07)
13:15～14:30 ポスターコアタイム
14:30～17:30 一般研究発表 (O-09～19)

9月2日 (土) 9:00～受付開始
9:30～11:45 一般研究発表 (O-20～27)
11:45～12:15 ポスターショートトーク (P08～15)
13:15～14:30 ポスターコアタイム
14:30～15:00 一般研究発表 (O-28～29)
15:15～17:15 総会 *
17:30～19:30 懇親会

9月3日 (日) 9:00～受付開始
9:25～9:30 会長挨拶
9:30～12:30 シンポジウム *
13:30～14:50 普及講演会 *
15:00～17:00 アウトリーチ巡検

9月4日(月) 9:30～15:30 専門巡検

*:ハイブリッド形式(現地会場+Zoomライブ中継)で開催

会場

100号館 211教室:一般研究発表、シンポジウム、普及講演会

100号館 アトリウム:ポスター発表、企業ブース

100号館 212教室:昼食・休憩会場

生協学生食堂:懇親会

<https://www.waseda.jp/navi/av/tokorozawa/zoom-a.html>

4. 一般研究発表

口頭発表(29件)

- O-01 池原 研・加 三千宣・原口 強・山田圭太郎・一井直宏・竹村恵二・別府湾コア研究グループ「別府市沖別府湾の海底地すべりと flow transformation」
- O-02 白井正明・河尻清和・宇津川喬子「基質の岩種組成から考える富士相模川ラハールの流下の様相」
- O-03 久保純子・熊原康博・森 俊輔・竹本仁美・鈴木瑞穂・貞方 昇「広島県太田川下流平野における表層堆積物と人為的地形形成」
- O-04 香川 淳・古野邦雄「関東地下水盆の地下水位現況(2020年)」
- O-05 小荒井 衛・中野早登・川村直輝・谷貝颯太・先名重樹「常時微動計測で把握した桜川低地と恋瀬川低地の地盤条件の違い」
- O-06 香月興太・瀬戸浩二・辻本 彰・仲村康秀・安藤卓人「珪藻群集が示す穴道湖における斐伊川東流イベント時の水環境変動」
- O-07 及川輝樹「御嶽火山における MIS 2 の氷河の発見—日本列島における lava-ice interaction の初めての報告—」
- O-08 北村晃寿「2022年台風15号により9月24日に発生した静岡市の洪水に関する研究」
- O-09 奥野淳一・菅沼悠介・石輪健樹・土井浩一郎「測地学・地質学的観測と GIA モデリングから拘束する完新世南極氷床変動史」
- O-10 加 三千宣・齋藤文紀・横山祐典・槻木玲美・土居秀幸「層序学上の人新世の始まり」
- O-11 加藤茂弘・兵頭政幸・石村大輔・廣瀬孝太郎・北場育子・中川 毅「古琵琶湖層群堅田層下部と喜撰川掘削コアの年代層序」
- O-12 田村 亨・趙 哲済・藤原啓史・藤薮勝則・大木 要・河本光月・瀬谷今日子・金澤 舞・菊井佳弥・福佐美智子・辻 康男「和歌山平野砂丘堆積物の長石ルミネセンス年代測定」
- O-13 Stephen Obrochta・Szilard Fazekas・Jan Moren「堆積物コア画像の自動切り抜きと長さの検出」
- O-14 黒木貴一「神社奉納物による被災域推定の背景」
- O-15 江口誠一・鈴木伸哉・清永丈太「武蔵野台地上の縄文時代から江戸時代初期堆積物より産出した植物珪酸体化石群」
- O-16 植木岳雪「東京都足立区千住地区の歴史に関する地形・地質調査:千住の立地と熊谷堤の築造」
- O-17 渡邊正巳・平石 充「風土記(奈良)時代における中浦水道の景観」
- O-18 下田一太・山田和芳・久保純子・本村充保・南雲直子・藤木利之・森 勇一・山口博之・中西利典「カンボジア中部サンボア・プレイ・クック遺跡群の古環境復元調査」
- O-19 中塚 武「数十年周期の気候変動の比較史に向けて」
- O-20 池田 薫「大宮台地の開析谷における沖積層の堆積環境と縄文海進—元荒川・綾瀬川の例—」★
- O-21 中西 諒・芦 寿一郎・岡村 聡・横山祐典・宮入陽介「北海道日高北部地域における津波堆積物から推定される複数の津波波源」☆
- O-22 石輪健樹・徳田悠希・香月興太・佐々木聡史・板木拓也・奥野淳一・菅沼悠介「海水準変動に伴う南極沿岸域湖沼における水塊構造の変化」☆
- O-23 根本夏林・横山祐典・Stephen Obrochta・堀池智士「ティモール海堆積物に対するベリリウム同位体分析による退水期における熱帯収束帯移動履歴の復元」★
- O-24 レグット 佳・横山祐典・宮入陽介・白濱吉起・阿部恒平・照沢秀司「表面照射年代測定を用いた岩手県侍浜における海成段丘の離水年代について」★

2023年大会案内 (第5報)

- O-25 酒井恵祐・中西利典・藤木利之・七山 太・大串健一「北海道春採湖における完新世前期～中期の高時間分解能に基づく古植生復元」★
- O-26 常岡 廉・坂下 渉・近藤玲介・横山祐典「鉛-210法に基づく北海道東部湿原における泥炭の炭素固定速度の推定」★
- O-27 木村勝彦・片岡香子「埋没材の年輪酸素同位体比分析に基づく沼沢湖火砕流とせき止め湖決壊の発生年代の時間差」
- O-28 長橋良隆・里口保文・中川和重「始良 Tn 火山灰の火山ガラスの形状解析」
- O-29 中里裕臣・岩本直哉・上田脩郎「3D 写真測量データによる千葉県屏風ヶ浦における犬吠層群テフラ分布の可視化」

ポスター発表 (15件)

- P-01 加藤茂弘・生野賢司・大平和弘・藤根 久・森 将志・石川 智・パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ「小鳴門海峡における完新世の相対的海水準変動」
- P-02 下岡順直・国武貞克・早田 勉・大石雅之・須藤隆司「八ヶ岳新期第4テフラ (Yt-Pm4) の放射性炭素年代について」
- P-03 谷川晃一郎・田村 亨・小森康太郎・根来湧輝「高知県南国市における完新世後期の海岸砂丘発達と津波浸水への影響」
- P-04 石井祐次「十勝平野にみられる最終氷期の河成段丘堆積物のルミネッセンス年代測定」
- P-05 中西利典・瀬戸浩二・香月興太・入月俊明・齋藤文紀・ホン ワン「放射性炭素年代測定による斐伊川河口の完新統の堆積速度と海洋リザーバー効果」
- P-06 古山精史朗「和歌山県南西部田辺沖の第四系海底音響層序の再検討」
- P-07 納谷友規・小松原純子「5万分の1地質図幅「川越」地域の鮮新統～第四系層序」
- P-08 里口保文・加 三千宣・林 竜馬・芳賀裕樹「琵琶湖南湖と北湖の泥質堆積物の堆積速度比較」
- P-09 片岡香子・ト部厚志・長橋良隆「猪苗代湖の湖底堆積物コア (INW2021) におけるイベント層の層序：安達太良火山・磐梯火山の近傍テフラ・ラハール層序との対比と火山活動履歴」
- P-10 館野宏彰「世田谷区における東京層下部の詳細なマッピング」★
- P-11 福與直人・レゲット 佳・宮入陽介・阿部恒平・越後智雄・宍倉正展・白濱吉起・横山祐典「高精度地殻変動履歴復元に向けた複数種の固着性生物遺骸を用いた ^{14}C 年代値の比較」☆
- P-12 安東 梢・宮入陽介・西田 梢・林 正裕・横山祐典「放射性炭素を用いた魚類水晶体の炭素源の定量的評価」★
- P-13 阪本昂平・横山祐典・坂下 渉・宮入陽介・阿瀬貴博・沢田近子・常岡 廉「日本の樹木年輪中の $\Delta^{14}\text{C}$ 値に基づく ^{14}C 年代較正に関する研究」★
- P-14 ZHANG, Yizhi・中里裕臣・岡崎浩子・田村 亨「Luminescence dating for identifying depositional sequences in the northeastern Kanto Plain, eastern Japan over the last 400,000 years」★
- P-15 山田佑哉・辻 智大「山口市徳地柚木における AT、Aso-4 火砕流堆積物を伴う段丘堆積物の検討」★ (☆：若手発表賞エントリー、★：学生発表賞エントリー)

5. シンポジウム「都市環境～ウェルビーイングな社会創出のための第四紀研究」

(9月3日 9:30～12:30 ハイブリッド形式)

- 9:30～ 9:35 趣旨説明 山田和芳 (早稲田大学人間科学学術院)
- 9:35～ 10:05 天野正博 (早稲田大学人間科学学術院)
「気候変動緩和策と地域社会」
- 10:05～ 10:35 知花武佳 (政策研究大学院大学)
「都市の水害・治水」
- 10:35～ 11:05 北浦恵美 (トトロのふるさと基金)
「トトロのふるさと基金による都市型自然保全：都市のコモンズを育む」
- 11:05～ 11:15 休憩
- 11:15～ 11:45 岸本太郎 (ふじのくに地球環境史ミュージアム)
「都市の生物多様性：その価値とリスク」
- 11:45～ 12:15 藤木利之 (岡山理科大学) ほか

「岡山城堀堆積物にみる過去 100 年間の都市の環境史」

12:15 ~ 12:30 総合討論

6. 普及講演会 (9月3日 13:30 ~ 14:50 ハイブリッド形式)

鈴木毅彦 (日本第四紀学会会長/東京都立大学)

「武蔵野台地をとりまく関東平野の『でこぼこ』風景を読む」

7. 企業ブース展示

第四紀学に関連する企業やグループのブース出展 (書籍注文・販売、業務内容の紹介等)、カタログ・書籍見本の陳列を行います。

出展団体 (企業): 株式会社パレオ・ラボ、地学団体研究会 (2023年8月1日現在)

8. 巡検 ※すでに申込締切しています

1) プレ巡検「狭山丘陵南部、玉川上水を巡る」(8月31日 8:30 ~ 15:00)

案内者: 宇津川喬子 (法政大学)、小森次郎 (帝京平成大学) ほか

2) アウトリーチ巡検「里山の風景を知り学ぶ、楽しい里山歩き会 ~早稲田大学所沢キャンパス内に見られる武蔵野の風景~」(9月3日 15:00 ~ 17:00)

案内者: 竹内大悟 (早稲田大学自然環境調査室)、久保純子 (早稲田大学)、早稲田大学学生ほか

3) 専門巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」(9月4日 9:30 ~ 15:30)

案内者: 納谷友規 (産業技術総合研究所)・水野清秀 (産業技術総合研究所) ほか

※すべての巡検は天候等によっては変更・中止・延期の可能性があります。

※参加者には個別に詳細情報をお知らせいたします。

9. 大会に参加する方へ

1) 来場方法

西武池袋線小手指駅からはスクールバス (参加者も利用可能、無料) もしくは路線バス (西武バス、200円) をご利用ください。9月2・3日は2023年大会用スクールバス特別ダイヤで運行されます。時間帯によって乗車場所が異なります。事前にご確認ください。所要時間はどちらも約15分。路線バスをご利用される方は、系統小手02早稲田大学行きで [終点 - 早稲田大学] まで、もしくは系統小手09宮寺西行きで [芸術総合高校] バス停で下車して徒歩5分となります。

スクールバス運行情報:

<http://www.waseda.jp/tokorozawa/kg/student-life/transportation.html>

西武バス運行情報

<https://www.seibus.co.jp/sp/>

お車での来場の場合、キャンパス内北門駐車場、正門駐車場を利用ください。駐車券の処理が必要ですので、大会受付にて駐車券の提示をお願いします。

2) 昼食事前注文

9月2・3日については、キャンパス内の購買ショップ・食堂が閉店しております。また、近隣にもコンビニやスーパー、飲食店はございません。バス乗車前に小手指駅周辺のコンビニ等での昼食購入を強くお勧めします。

また、両日についてはお弁当 (800円) の事前注文を承ります。希望者は大会専用サイトから事前注文をお願いいたします。注文後のキャンセルはできませんのでご了承ください。

3) 懇親会 (9月2日 17:30 ~ 19:30)

所沢キャンパス内の生協学生食堂にて実施します。当日の参加も可能ですが、できるかぎり事前予約をお願いいたします。希望者は大会専用サイトから申込をお願いいたします。料金は一律6,000円となります。懇親会終了後、小手指駅行きのスクールバスを増発します。懇親会では所沢の地元の食材をつかった料理、お酒を準備します。多くの方のご参加をお待ちしております。

10. 大会実行委員会および行事委員会

大会実行委員長：山田和芳（早稲田大学）

実行委員：久保純子、内記昭彦、宋 苑瑞（以上、早稲田大学）、植木岳雪（帝京科学大学）、小森次郎（帝京平成大学）、納谷友規（産業技術総合研究所）、目代邦康（東北学院大学）

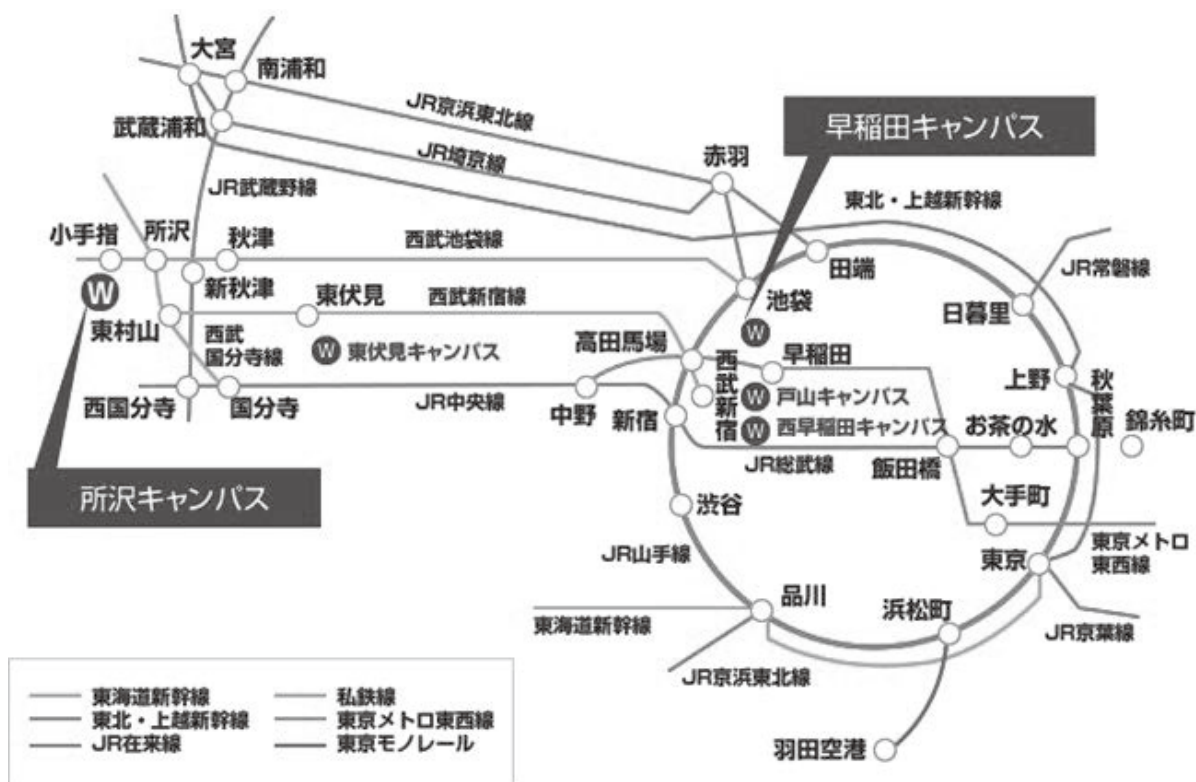
行事委員会：池原 実（委員長、高知大学）、木村英人（株式会社ソイルシステム）、久保純子（早稲田大学）、中塚 武（名古屋大学）、西澤文勝（神奈川県立生命の星・地球博物館）

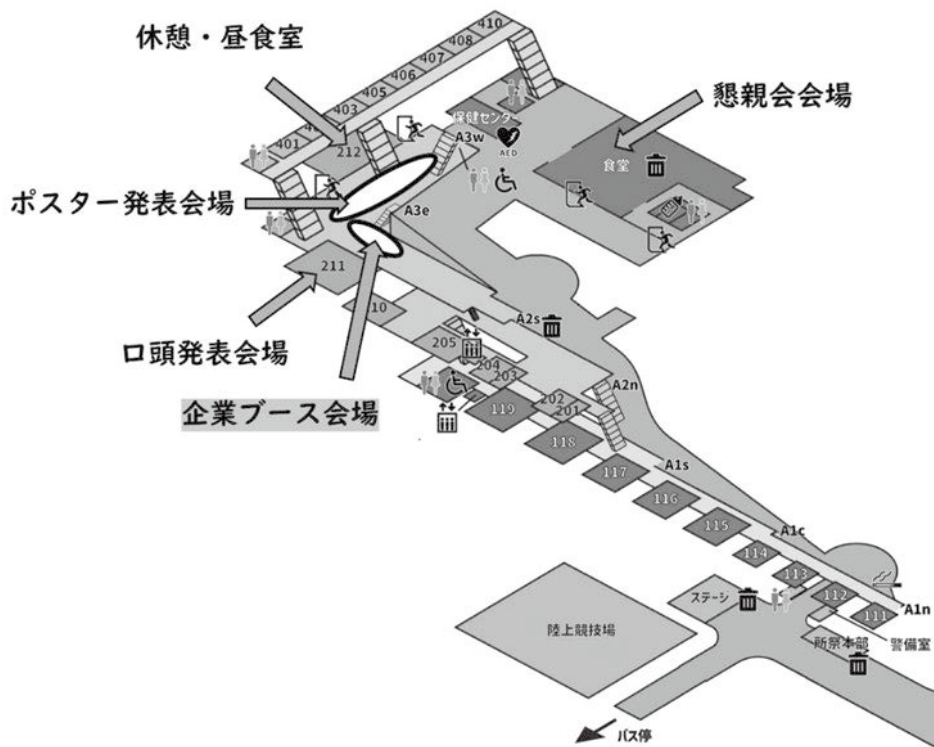
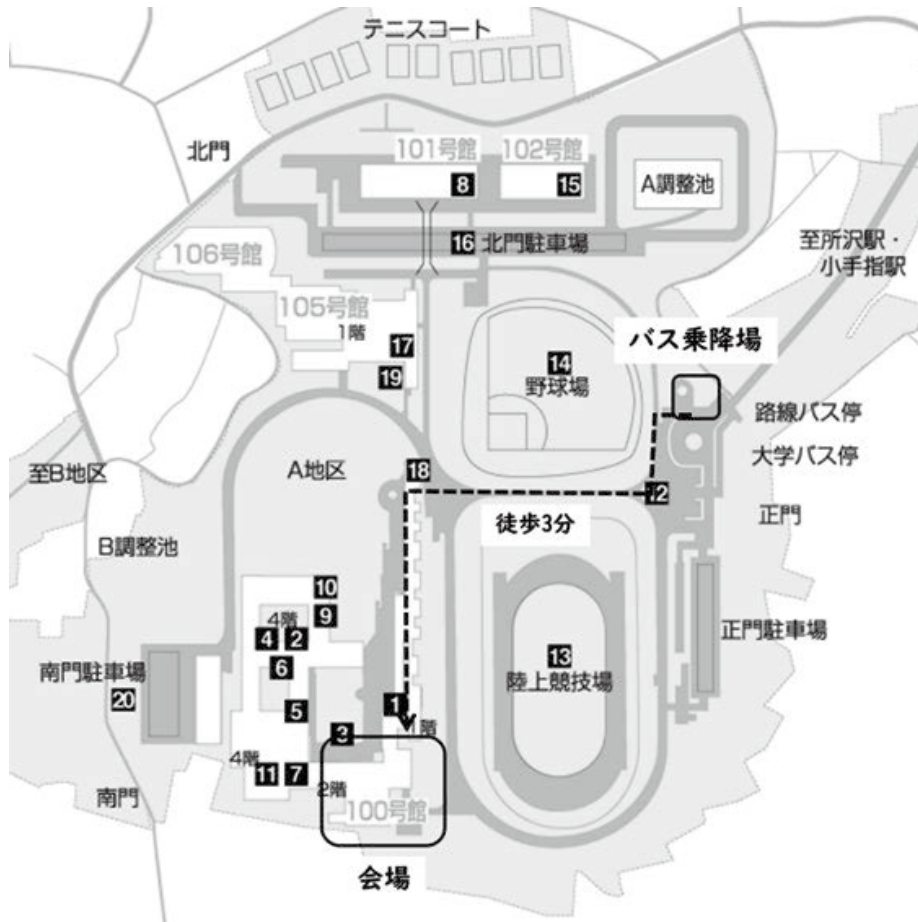
連絡先：2023年大会実行委員会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15 早稲田大学人間科学学術院 山田和芳

Tel 04-2947-6729 メール：jaqua2023_meeting(at)googlegroups.com ((at)を@に変える)

会場案内





◆日本第四紀学会 2023 年度総会・第 2 回評議員会のお知らせと委任状提出のお願い

日本第四紀学会 2023 年大会期間中の 9 月 2 日（土）15:15～17:15 に、日本第四紀学会 2023 年総会を大会会場である早稲田大学所沢キャンパスでの対面と Zoom を用いたオンラインによるハイブリッド形式で開催します。総会は 2022 年度の事業報告が行われ、また 2023 年度事業計画が提案される重要な会議です。会員の皆様には、ぜひともご参加をお願いします。大会への参加登録がまだの方は、大会専用サイト (<https://sites.google.com/view/2023jaqua/>) から申し込んでください。また、総会に参加されない正会員の方は、大会専用サイトから委任状の提出をお願いします。委任する場合は、総会議長または総会に出席される正会員へ委任してください。なお、総会議長への委任を除き、個人の正会員へ委任される場合には、出席される正会員 1 名につき、欠席される正会員 1 名分しか委任を受けることができませんので、事前に委任者にご確認ください。

参加登録及び委任状提出の締め切りは 8 月 25 日（金）17 時です。

総会に引き続いて、2023 年の学会賞・学術賞受賞者の表彰式を行いますので、こちらへのご参加もお願いします。

なお、総会資料は、8 月 31 日までに、会員マイページ (<https://mypage.sasj2.net/site/jaqua>) 内に掲載する予定です。会員マイページへは、会員番号（会誌が入った封筒の会員宛名の下にある 10 桁の数字）とパスワードを入力してログインしてください。総会資料は会場では基本的には配布しませんので、各自パソコンにダウンロードされるか、印刷してご用意ください。

2023 年度第 2 回評議員会は、大会初日の 8 月 31 日（金）16:00～19:00 に大会会場である早稲田大学所沢キャンパスでの対面と Zoom を用いたオンラインによるハイブリッド形式で開催します。評議員会メンバーには後日メーリングリストにて詳細を連絡いたします。なお、会長経験者・名誉会員の方には、今回は個別の案内を差し上げませんので、評議員会に参加される方は、8 月 25 日（金）17 時までに下記庶務委員会まで電子メールにて参加のご連絡をお願いします。

庶務委員会メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp [(at) の部分を @ に変えて送ってください。]

◆2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者選考報告

(1) 選考経過

日本第四紀学会 2023 年学会賞等の候補者の推薦は 2023 年 2 月 28 日をもって締め切られた。学会賞選考委員会（鈴木毅彦委員長、藤原 治副委員長、小野有五委員、齋藤文紀委員、高原 光委員）は、2023 年 4 月 12 日、4 月 26 日、5 月 12 日、5 月 15 日にオンライン会議を開催し、推薦があった候補者について 2023 年日本第四紀学会学会賞、同学術賞の選考を行った。選考委員会会議においては、推薦のあった候補者について候補者の資格の確認後、日本第四紀学会顕彰規程と関連する内規に基づき、推薦書、各候補者の業績などを参照して審議を行った。また委員の利益相反の確認を行い、該当した 1 名の委員については該当する候補者の審議から同委員を除いて審議を行った。以上の結果、学会賞 1 名、学術賞 2 名の受賞候補者を決定した。なお、今回は若手学術賞の推薦はなかった。2023 年 6 月 17 日にオンラインにて行われた 2022 年度第 4 回評議員会において、これらの候補者が受賞者として決定された。

(2) 受賞者

●日本第四紀学会学会賞

受賞者氏名・所属：兵頭政幸会員（神戸大学名誉教授）

受賞件名：古地磁気学を基礎とした第四紀学への多様な貢献

受賞理由

兵頭政幸会員は、2012年に日本第四紀学会から「古地磁気層序の高度化と古環境・人類学への貢献」により学術賞を受賞している。その後も精力的に古地磁気学を基礎に、年代層序学、古気候・古環境学、人類学など幅広い分野に貢献を続けてきた。

大阪層群や上総層群のボーリングコア試料により松山・ブルン地磁気逆転境界層準を高精度で明らかにするとともに、地磁気強度と花粉群集解析結果を統合し、磁場強度が極端に低い時期に銀河宇宙線フラックスが増加したことにより雲量が増えた結果、日傘効果によって最高海面期に対して温暖化が遅れるという仮説を提案した。また、これらのコアと大西洋のデータを高分解能で対比することによって数千年規模の気候変動が太平洋と大西洋で同期していることを示した。東アジアの夏季モンスーン変動の代理指標として広く用いられている帯磁率に関しては、中国黄土・古土壌の互層の帯磁率変化に土壤中で風化した白雲母や緑泥石の内部に形成された自生磁鉄鉱と赤鉄鉱が大きく寄与していることを明らかにした。

一方、古地磁気学の研究では、水月湖の年縞堆積物を用いてブルン正磁極期のラシャン・エクスカーションの高分解能の詳細な層序と年代を示すとともに、従来の説よりもはるかに急速かつ大規模な地磁気極移動現象であったことを明示した。

インドネシア・ジャワ島のサンギラン地域におけるジャワ原人化石を産出した地層の年代層序、世界最古のハンドアックスとその他のアシュリアン石器が発見されたエチオピアのコンソ遺跡、エチオピア・アファール地溝帯のチョローラ累層から発見されたゴリラの近縁種の化石の年代決定においても古地磁気層序を基礎として重要な貢献を行ってきた。

以上の学術的な貢献に加えて兵頭会員は日本第四紀学会においては1999年から評議員9期、幹事、領域代表、評議員会議長を歴任し、学会の活動を支えてきた。広報幹事として第四紀通信の編集と出版、ウェブサイトを経年担当し、特に日本第四紀学会が2015年に共同主催した第19回国際第四紀学連合大会においても広報・ウェブサイトを担当し、大会の成功に大きく貢献した。

以上のように兵頭会員は、分野を横断する多岐に渡る研究や活動を行い、第四紀学と日本第四紀学会の発展に多大な貢献をしたことから、日本第四紀学会学術賞にふさわしいと判断した。

●日本第四紀学会学術賞

受賞者氏名・所属：池原 実（高知大学海洋コア国際研究所）

受賞件名：有機地球化学および安定同位体による第四紀海洋環境変動の研究

受賞理由

池原 実会員の専門は、有機地球化学および安定同位体に基づく第四紀における海洋環境変動の研究である。

池原会員は1990年代後半に、南大洋などでバイオマーカーを用いた古海洋学的研究を行い、以下の重要な知見を得た。南大洋タスマン海台のコア試料にアルケノン古水温計を適用し、過去2回の氷期と間氷期のサイクルでは、いずれも表層水温変動が約5°Cにおよび、CLIMAPで示された値よりも大きいことを明らかにした。この成果はアルケノン古水温計を南大洋に適用した世界初の研究であり、国際的に広く引用されている。また、同海域のコア試料からバイオマーカーフラックスの変動を復元し、過去2回の氷期は間氷期よりも植物プランクトンの生産量が著しく増大していたことを明らかにした。現在の南大洋は植物プランクトンに必要な鉄が欠乏しており、生物生産が抑制された「高栄養塩—低生産量」海域だが、氷期には陸源ダスト量の増大で生物生産量が増加したことから、南大洋の生物ポンプの駆動効率の変化が気候変動の重要因子であることを提唱し、広く引用されている。池原会員は、これらの研究を新学術領域研究の古海洋班による研究「南大洋の古海洋変動ダイナミクス（古海洋班）」として発展させ、研究代表者としてリードしてきた。

また、安定同位体による研究を黒潮の影響を受ける海域で進めており、北西太平洋の黒潮流域のコア試料から有機物の¹³C変動を復元し、アジアモンスーンによるダストの供給に加え、最終退氷期（last deglaciation）の海面上昇に伴う東シナ海からの亜熱帯循環への栄養塩の側方輸送が生物生産性を高める役割を果たしていたことを明らかにした。さらに、黒潮の日本列島沿岸環境への影響を定量評価するため、浅海底生有孔虫の¹⁸O値からの水温換算式を導いた。

池原会員は、以上のようにバイオマーカーなどを用いて南大洋や黒潮流域における第四紀の気候変動の解明に大きく貢献したことから、日本第四紀学会学術賞にふさわしいと判断した。

●日本第四紀学会学術賞

受賞者氏名・所属：堀 和明（東北大学）

受賞件名：完新世における沖積平野、特にデルタの地形発達と堆積システムの変化に関する第四紀学的研究
受賞理由

堀 和明会員は、アジア各地の沖積平野、特にデルタを主対象に、年代測定技術、地形学や堆積学の手法を駆使し、土砂流出量の多い大河川の下流における地形発達過程を、デルタ堆積物の堆積速度やその形態的進化として捉え、形成された地層の堆積相の多様性を明らかにした。長江と紅河という世界有数の巨大デルタにおけるこれら先駆的研究は、その後世界各地の沖積平野で展開された同様の研究の端緒となった。

世界各地のデルタの分布、分類、形態、堆積過程、進化について、現在と第四紀後半の事例を比較しながら解明することで、デルタの普遍的な発達過程のモデル構築に貢献した。その成果には、前期完新世の急激な海面上昇への河口域の堆積システムであるエスチュアリー・デルタの応答も含まれる。これらに関する論文は世界中の研究者に多く引用され、広く受け入れられている。

国内においても、木曾三川、天竜川、石狩川、多摩川の沖積平野において、高密度なオールコア堆積物の解析と年代測定とにより、沖積層とそれがつくる地形が、最終氷期末からの海面変動と気候変動に対してどのように発達してきたかを高精度で解明してきた。特に木曾三川と多摩川のデルタにおいては、上流域の土地利用変化による土砂供給量の変化や埋め立て・浚せつなどによる人為的なかく乱が、デルタの発達過程に与える影響を、共同研究者とともに定量的に解明した。

堀会員のこれらの研究によって、デルタは相対的な海面上昇だけでなく、人為的な土砂排出量の変化や地形改変に対しても敏感に反応することが明らかになった。人為的なかく乱が、沿岸域における持続性にとって従来考えられてきた以上にリスクとなることを第四紀学の立場から示したものである。これは、急速に成長する巨大都市が多数存在し、人口や世界の水田の大部分が集中するアジアの巨大デルタの環境を考える上で極めて重要な貢献といえる。

堀会員のこれら一連の研究業績は、第四紀学の発展に大きく寄与するものであり、日本第四紀学会学術賞にふさわしいと判断した。

◆2023 年日本第四紀学会論文賞・奨励賞選考報告

日本第四紀学会論文賞ならびに日本第四紀学会奨励賞（以下、論文賞、奨励賞という）について、「第四紀通信」29 巻 6 号、30 巻 1 号、及び学会メーリングリストで会員からの推薦が募集され、2023 年 2 月 28 日に締め切られた。その結果、論文賞と奨励賞のいずれについても候補論文の推薦はなかった。

論文賞選考委員会（奥野 充委員長、入野智久委員、卜部厚志委員、海部陽介委員、西山賢一委員）は、これを受けて論文賞ならびに奨励賞に関する選考を 4 月 17 日から電子メールで開始した。受賞対象となる「第四紀研究」60 巻 1 号から 61 巻 4 号に公表された論文について、論文賞の対象論文 12 編、そのうち 2 編が奨励賞の対象論文であることを確認した。そして、学会賞受賞者による招待論文 1 編を除く論文の中から各委員による推薦を求め、4 月 26 日に全委員からの推薦が揃った。4 月 28 日に各委員から推薦された論文賞候補 6 編と奨励賞候補 1 編をとりまとめ、これらを再度精査することにした。5 月 8 日までに論文賞に関する推薦文案（3 編）が各委員から提出された。なお、奨励賞については推薦文案の提出がなかった。その後、これら 3 論文に対して、選考委員会として推薦するに足る賛同が得られなかったことから、5 月 19 日に本年度は論文賞ならびに奨励賞ともに該当なしと決定した。

2023 年 6 月 17 日にオンラインにて行われた 2022 年度第 4 回評議員会において、論文賞選考委員会の答申が承認され、2023 年論文賞ならびに奨励賞受賞者は該当なしと決定された。

◆【重要】日本第四紀学会 会費のWEB 決済開始のお知らせ

2023 年度会費より会員マイページを利用した WEB 決済が可能となりました。クレジットカード、コンビニ、ペイジーにてお支払いが可能です。なお、WEB 決済における決済手数料は掛かりません。

従来の形式（郵便払込取扱票）をご希望の場合は、8 月に郵送予定ですので、WEB 決済せず、お待ちください。（従来通り、こちらは支払い手数料が掛かりますのでご承知おきください。）

本会会費は前納です。2023 年度より会期が 7 月～6 月末となります。6 月末までに次年度の会費をご納入いただく必要がございます。まだお納めでない方は、お早めによりしくお支払いください。

翌年度以降の新年度会費決済開始のご案内につきましては、会員マイページにてご登録のメールアドレスへ配信いたしますので、会員マイページよりご登録のメールアドレスをご確認の上、最新の情報へ更新をお願いいたします。

会員マイページ <https://mypage.sasj2.net/site/jaqua> 又は、
日本第四紀学会の HP より「会員マイページ」をクリック、
もしくは、右の QR コードよりアクセス

会員番号（10 桁）は、学会からのお知らせの封筒宛名に印字しております。

パスワード不明の場合は、【パスワードをお忘れの方へ】より、再発行をお願いいたします。

※メールアドレス未登録の場合は、再発行出来ませんので事務局までご連絡ください。



◆日本第四紀学会 2022 年度第 5 回執行部会議事録

日 時：2023 年 5 月 20 日（土） 13:00～18:00

場 所：八重洲倶楽部第 8 会議室（東京都中央区）

方 法：対面+Zoom オンライン（ハイブリッド）

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、

須貝俊彦（副会長）、水野清秀（庶務）、

苅谷愛彦（オンライン：編集）、山田和芳

（オンライン：渉外）、田村 亨（領域 1）、

堀 和明（領域 2）、目代邦康（領域 5）

欠席者：齋藤めぐみ（会計）、工藤雄一郎（行事）、

那須浩郎（広報）、卜部厚志（領域 3）、

海部陽介（領域 4）

オブザーバー出席：青木まどか・永峯菜穂子（事務局）

主な報告事項

(1) 日本学術会議 IUSS 分科会主催シンポジウムの後援、日本学術会議公開シンポジウム「最終氷期以降の日本列島の気候・環境変動と人類の応答」共催を決めた。また、領域 2 が中心となり、2023 年 3 月 25 日（土）・26 日（日）に開催された「国際火山噴火史情報研究集会 EHAI2022-2」を後援した。

(2) 事務局春恒社の日本第四紀学会担当者が変更

になった。

(3) 2023-2024 年度役員選挙結果が選挙管理委員会から提出された。当選者には、当選通知と委嘱状の送付を準備中である。

(4) INQUA ローマ大会若手派遣支援 3 名に対し、1 名には支援金を支払い、他の支援が受けられる可能性がある 2 名については確認後対応する予定である。

(5) 来年度の年会費を会員マイページ上でオンライン決済する準備を進めた。6 月中に会員宛、決済方法の案内を郵送する。従来方式の振込票を利用する場合は、8 月に送付するので、それまで待ってもらう。

(6) 第四紀研究第 62 巻 2 号（受賞論文 1 編、短報 1 編）を刊行した。受理済み論文については、順次 J-STAGE で早期公開を行った。

(7) 編集委員会（通常号）をメール審議形式で 1 回開催した。2023 年 5 月 12 日現在の通常号手持ち原稿（書評を除く）は受理前 11 編、受理済 6 編。

(8) 第四紀通信第 30 巻第 2 号を編集・発行し、電子版（PDF 版）を学会ホームページに掲載した。

(9) 防災学術連携体の「関東大震災 100 年企画冊子」へ小荒井 衛会員が執筆することになった。

(10) 領域5が中心となり、2023年7月15日(土)・16日(日)に阿蘇ユネスコグローバルジオパークの協力を得て、シンポジウム「活断層の保存とその活用」を開催予定である。

主な審議事項

(1) 役員選挙に関する選挙管理委員会のコメントを受けて、評議員数の減少などの問題について議論を行い、次回評議員会にて、意見交換をすることにした。
 (2) 栗駒山麓ジオパーク推進協議会からのシンポジウム後援依頼に対して、後援することを決めた。また、白滝ジオパーク推進協議会から国際会議の

プログラムブックにロゴマーク掲載の依頼があったが、まず後援依頼書を出してもらうことにし、そのうえで承諾することとした。併せて、ロゴマークの表現規定を作ることにした。

(3) 論文賞に関する顕彰規程・内規の修正案について議論し、次回評議員会にて原案を示し、意見交換することにした。

(4) 2023年大会時の事前決済サービスを導入することにした。また、評議員会を8月31日に、懇親会を9月2日に開催することにした。

(5) オンライン委員会(特別委員会)について、次期(2023-2024年度)まで継続することで評議員会に諮ることにした。

◆日本第四紀学会 2022 年度第 4 回評議員会議事録

日時：2023年6月17日(土) 9:00～12:15
 方法：Zoomシステムを用いたオンライン会議
 出席者：鈴木毅彦(会長)、北村晃寿(副会長)、須貝俊彦(副会長)、<以下、評議員>中塚武(議長)、坂下渉、吾妻崇、石村大輔、奥野充、丹羽雄一、堀和明、青木かおり、長橋良隆、兵頭政幸、水野清秀、井上淳、江口誠一、高原光、那須浩郎、小荒井衛、三田村宗樹、目代邦康

委任状：議長委任 14 通

オブザーバー出席：齋藤文紀(会長経験者)

須貝俊彦副会長の司会で開会され、鈴木毅彦会長の挨拶、定足数の確認に続いて中塚武議長(代理)によって下記の議事が進められた。最後に北村晃寿副会長の挨拶で閉会となった。

(1) 2023-2024 年度役員選挙結果報告

水野清秀庶務委員長によって役員選挙結果が紹介されるとともに、当選者には委嘱状を送付したこと、6月17日14時からオンラインによる役割分担会議が開催されることが報告された。石村大輔選挙管理委員長からは選挙結果に関する若干のコメントが述べられた(資料1参照)。

(2) 会費のWEB決済導入報告

齋藤めぐみ会計委員長による資料をもとに、2023年度会費から会員マイページを利用したWEB決済が可能となったことが水野庶務委員長

から報告された(資料2参照)。詳しい案内は事務局から会員宛に郵送される。

(3) 2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者の決定(審議事項)

鈴木毅彦学会賞選考委員長から、選考経過と候補者の推薦理由の説明があり、候補者となっている評議員は一時的に退出してもらったうえで審議を行い、賛成多数で下記のとおり受賞者が決定された(詳細は本号の2023年学会賞・学術賞・若手学術賞受賞者選考報告参照)。

学会賞受賞者：兵頭政幸会員

学術賞受賞者：池原実会員、堀和明会員

(4) 2023 年日本第四紀学会論文賞・奨励賞受賞者・受賞論文の決定(審議事項)

奥野充論文賞選考委員長の代理で、水野庶務委員長が論文賞選考委員会答申の説明を行った。今年、論文賞・奨励賞候補共に該当なしという答申であり、審議の結果、承認された(詳細は本号の2023年日本第四紀学会論文賞・奨励賞選考報告参照)。

(5) 日本第四紀学会ロゴマーク表現規定の提案(審議事項)

北村晃寿副会長から、日本第四紀学会ロゴマークの表現規定を設ける提案があり、審議の結果、承認された(資料3参照)。なお、ほかの機関が日本第四紀学会ロゴマークを使用する条件などについては、別に規約を設けることで検討することと

した。

(6) 意見交換

論文賞に関する顕彰規程ならびに論文賞・奨励賞選考に関する内規改正案について、水野庶務委員長から提案があった。非会員も論文賞の候補者となれること、非会員および学会賞・学術賞受賞者への依頼論文は選考対象外とすること、選考過程において編集委員会から意見を聞く項目は削除するなどの方針で賛同が得られ、2023年度の論文賞・奨励賞選考から適用できるように次回以降の

評議員会で正式に提案することとした。また、会員数が減少する中で評議員数をどうするか、選挙年の会費未納者への選挙権・被選挙権の扱い、評議員の選出方法など、役員選挙規程の改正に向けての意見交換を行った。さらに、2023-2024年度体制への引継ぎスケジュールについて確認した。そのほか、齋藤文紀日本学術会議 INQUA 小委員会委員長から、共催シンポジウム、INQUA ローマ大会、日本学術会議の次期連携会員選考などについての報告がなされた。

【資料 1】

2023年5月17日

日本第四紀学会会長
鈴木 毅彦 殿

日本第四紀学会 2023-2024 年度役員選挙結果の報告（答申）

日本第四紀学会選挙管理委員会 委員長 石村 大輔
委員 石輪 健樹
委員 岩本 直哉
委員 納谷 友規
委員 橋詰 潤

日本第四紀学会会則第 11 条、第 12 条および役員選挙規程に基づき、2023-2024 年度の役員選挙を行いました。経過、結果、ならびに今回の選挙に関するコメントを報告いたします。

1. 経過

1) 第 1 回委員会を 2 月 8 日（水）に春恒社会議室にて対面で開催した。委員会成立を確認した後、委員会構成と連絡先、会則および役員選挙規程、選挙人の数、被選挙権を有しない正会員（選挙種別ごと）、評議員の領域別定数、選挙日程と方法、ウェブ投票システム、会報および学会 HP・ML による選挙案内などについて確認を行った。また、ウェブ投票が難しい選挙人のため、投票用紙を利用した郵便による投票も実施することを確認した。

2) 「役員選挙の実施と候補者受付について（会告）」および各種届出様式について確認を行い確定した。

3) 以下の日程で選挙を実施することとした。

3 月 1 日（水）：「役員選挙の実施と候補者受付について（会告）」の発送、同会告および各種届出様式の会員マイページへの掲載

3 月 20 日（月）：立候補・推薦届出書の受付締め切り、郵便投票事前申請の締め切り

3 月 27 日（月）：候補者辞退届の受付締め切り

4 月 5 日（水）午前：「役員選挙候補者受付結果と選挙実施について（会告）」および候補者名簿・評議員被選挙人名簿の会員マイページへの掲載

4 月 5 日（水）正午：ウェブ投票の開始

4 月 24 日（月）正午：ウェブ投票の締め切り

5 月 10 日（水）：ウェブ投票結果の確認、当選人と次点者の確定

4) 3 月 23 日（月）に立候補・推薦届出書提出を締め切った後、本人確認を行い、候補者および推薦者に候補者一覧表を送付した。その後 3 月 27 日（月）に候補者辞退届提出を締め切った。候補者辞退届は提出されなかった。会長候補者は 1 名、副会長候補者は 2 名と確定し、それぞれ定数以内であるため無投票当選となった。そのため投票は評議員の選出のみを対象とすることとなった。

5) 4月5日(水)正午から4月24日(月)正午まで、評議員の選出を対象としたウェブ投票を会員マイページにて実施した。

6) 選挙実施に際しては広報委員会に依頼して以下の案内を行い、立候補・推薦、および投票を呼びかけた。

2月12日(日):学会HP掲載「役員選挙のお知らせ」

3月1日(水):学会ML配信「日本第四紀学会役員選挙の候補者受付について」

3月10日(金):学会ML配信「【リマインド】日本第四紀学会役員選挙の候補者受付について」

3月15日(水):学会ML配信「【リマインド】日本第四紀学会役員選挙の候補者受付について」

4月5日(木):学会ML配信「2023-2024年度役員選挙開始」

4月15日(土):学会ML配信「2023-2024年度役員選挙:投票をお願いします」

4月20日(木):学会ML配信「【リマインド】2023-2024年度役員選挙の投票」

4月22日(土):学会ML配信「役員選挙の投票締切が迫っています」

7) 第2回委員会を5月10日(水)に開催した。方法はZoomを用いたウェブ会議(学会アカウントを使用)とした。委員会成立を確認した後、ウェブ投票結果の確認を行い、当選人と次点者を確定した。答申についても検討を行い、その後確定した。

8) 選挙権(投票権)をもつ正会員806名のうち125名から投票があった(うち4名は白票)。投票率は15.5%であった。領域別の投票率は、領域1が9.57%(投票数463/投票枠数4,836)、領域2が7.97%(投票数578/投票枠数7,254)、領域3が7.53%(投票数374/投票枠数4,836)、領域4が7.80%(投票数503/投票枠数6,448)、領域5が8.02%(投票数388/投票枠数4,836)であった。前回の選挙同様に領域1の投票率がやや高かった。その要因として、候補者数が多かったことを指摘できる。

2. 立候補・推薦候補者の受付結果(受付順・50音順)

それぞれの役職に対して、下記会員からの立候補・推薦があった。会長候補者、副会長候補者はそれぞれ定数以内であり、無投票当選となった。

1) 会長(定数1名)

鈴木毅彦(領域3、推薦、推薦者:北村晃寿・須貝俊彦)・・・無投票当選

2) 副会長(定数2名)

北村晃寿(領域4、推薦、推薦者:鈴木毅彦・須貝俊彦)・・・無投票当選

須貝俊彦(領域2、推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)・・・無投票当選

3) 評議員

領域1(定数6名)

加 三千宣(立候補)、平林頌子(立候補)、横山祐典(推薦、推薦者:平林頌子・坂下 渉)、

久保田好美(推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)

領域2(定数9名)

奥村晃史(立候補)、荻谷愛彦(推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)

領域3(定数6名)

水野清秀(推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)

領域4(定数8名)

なし

領域5(定数6名)

山田和芳(推薦、推薦者:鈴木毅彦・北村晃寿)、木村英人(立候補)

3. 評議員選挙当選人

選挙の結果、下記会員が当選となった。次点者を含めて報告する(50音順)。

領域1(気候変動及び海洋の諸プロセス):定数6名

阿部彩子、池原 実、久保田好美、加 三千宣、平林頌子、横山祐典、(次点)田村 亨

領域2(陸上の諸プロセス):定数9名

吾妻 崇、石村大輔、奥村晃史、荻谷愛彦、久保純子、小松原純子、佐藤善輝、白井正明、堀 和明、(次点)小岩直人

領域3(層序と年代基準):定数6名

青木かおり、卜部厚志、岡田 誠、里口保文、納谷友規、水野清秀、(次点)塚本すみ子

領域 4（人類と生物圏）：定数 8 名

井上 淳、海部陽介、工藤雄一郎、齋藤めぐみ、中塚 武、那須浩郎、林 竜馬、百原 新、
（次点）高原 光

領域 5（現代社会に関わる第四紀学）：定数 6 名

石原与四郎、小荒井 衛、木村英人、前杵英明、三田村宗樹、山田和芳、（次点）北田奈緒子

4. 役員選挙（事務）に関するコメント

1) 前回の選挙と同様に、所属する領域を登録していない正会員は、実質的に被選挙権を持たないとした。ただし、以下で述べる 3) の内容とも関係するため、領域未登録者への登録を促すなどの積極的な対応や、選挙権・被選挙権について、所属領域の登録が条件となることを役員選挙規程に明記すること、を検討していただきたい。

2) 評議員領域別定数の根拠となる領域別正会員数について、前回の選挙と同様に、2月1日時点における当該年度の会費納入状況を不問として数えることとした。会費納入状況に関する記載が役員選挙規程にないためである。しかし、役員選挙規程第 15 条によると会費未納者は選挙権・被選挙権を有しない。以下で述べる 3) と関係するが、現状では、会費未納者に対する扱いが不明確であるため、役員選挙規程の修正を含めて検討していただきたい。

3) 現在の各領域の正会員の数と領域別役員定数の差が大きくなっており、不平等を生んでいると思われる。最も正会員の少ない領域 1 では正会員が 95 名で、役員定数が 6 名に対し、最も正会員の多い領域 2 では正会員が 245 名で、役員定数が 9 名である。正会員の数に倍以上の差があるのに対して、役員定数は 1.5 倍となっている。今後、このような状態についての議論が必要である。また、1)、2) にあるように、領域別役員定数の計算に含まれる正会員の数の計算方法（領域未登録者、会費未納者）について、規程への明文化も検討していただきたい。

4) 推薦書について、前は候補者の生年月日を入力することとしていたが個人情報にあたるため、被推薦者の承諾済みのチェックボックスに変更した。また、立候補者の本人確認には、登録済みのメールアドレスを使用することとした。

5) 役員選挙規程第 24 条に「選挙人は、選挙管理委員会が作成する投票用紙を利用した郵便による投票をもって行なうことができる。」とあるため、郵便による投票への対応を行った。しかし、今回の選挙では、希望者はいなかった。現状では、役員選挙規程にあるため対応せざるを得ないが、現実には則していないため、役員選挙規程の修正を含めて検討していただきたい。

6) 評議員選挙の候補者数は領域 1 と 5 以外で低調であり、領域 4 では 0 名であった。学会 ML で複数回候補者受付に関する案内を行ったが、さらなる工夫も検討する必要がある。また、学会として何らかの対策が必要であると考えられる。

7) 今回の投票率は 15.5%（正会員 806 名のうち 125 名から投票）であり、前回の 15.6%（正会員 831 名のうち 130 名から投票）と同様であったが、依然として低い投票率が最近 3 回で続いている。前回の答申でも述べられているが、会員マイページのログイン方法を繰り返して周知する、投票意欲をもつ会員が選挙権を失わないよう会費納入を呼びかける、選挙関連情報の周知徹底のため ML への登録を呼びかける、ML 配信の際には文面だけでなく会告などの情報も一緒に送付する、などの取り組みを行うなどの工夫が必要である。特に、会員マイページを多くの会員に知ってもらうことは、ウェブ投票する際のハードルを下げると思われるため、学会での積極的なマイページの活用を検討していただきたい。

以上

【資料 2】

会費の WEB 決済導入報告

1) 2023 年度年会費より WEB 決済を開始する。

- ・ 2023 年 6 月 16 日に会員へ案内文を郵送した。
- ・ WEB 決済方法（コンビニ・ペイジー）は、申し込み後の自動返信メールにて案内。
- ・ 今後未納者へは、メール配信（適宜）で連絡、並びに郵便払込票を発送（8 月）。

2) WEB 決済における関連費用は下記の通り。

- ・ WEB 決済システム構築費：概算 100,000 円（初回、税別）、クレジットカード、コンビニ払い、ペイジー

での支払いが可能。

- WEB 決済システム運用費：概算 383,000 円（年間、税別）、年間 500 名がオンラインで決済した場合

内 容	年 額	備 考
会費決済システム運用管理	60,000 円	月 5,000 円
システム利用料	75,000 円	@150 円 x500 名
決済手数料 ※「りそな決済サービス」へ支払う	140,000 円	1 決済約 3%
口座維持管理費 ※「りそな決済サービス」へ支払う	108,000 円	月 9,000 円

- 会費請求のスケジュール

第 1 回目（6 月）：2023 年度分年会費決済開始の案内（初年度は郵送、次年度以降はメール配信等）

第 2 回目（8 月）：未納者へメール配信にて催促（個別に送る場合は別途費用）、未納者のみ郵便払込票発送、長期滞納者の支払い期限 8 月末

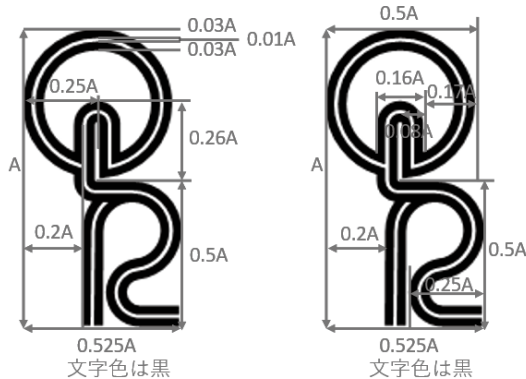
第 3 回目（3 月）：未納者へメール配信にて催促（個別に送る場合は別途費用）

【資料 3】

日本第四紀学会ロゴマーク表現規定の提案

近年、ロゴマーク等の使用については、表現を規定する諸機関・団体が増えている。この状況を踏まえ、本会のロゴマークにも表現規定を設けることを提案する。なお、表現規定の作成時に、現在の「第四紀研究」、「第四紀通信」の色調は Paleogene に最も近いことが判明したので、Color Code according to the Commission for the Geological Map of the World (CGMW) に従い、CMYK セットの 0/0/50/0 に変更することを編集委員会に提案し、次巻 63 巻から変更する予定である。

文字のみを使用する場合



変形させてはならない



文字色を変えてはならない

文字と地の色を使用する場合



文字色は黒
 地の色のRGBセット：249/249/127
 地の色のCMYKセット：0/0/50/0



地の色を変えてはならない

◆日本第四紀学会 2023 年度第 1 回評議員会議事録

日 時：2023 年 7 月 2 日（日）9:00～12:00
 方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議
 出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、
 須貝俊彦（副会長）、池原 実、加 三千宣、
 平林頌子、横山祐典、吾妻 崇、荻谷愛彦、
 久保純子、小松原純子、白井正明、堀
 和明、青木かおり、里口保文、納谷友規、
 水野清秀、井上 淳、中塚 武、那須浩郎、
 林 竜馬、木村英人、小荒井 衛、三田
 村宗樹、山田和芳（以上、評議員）
 オブザーバー 青木まどか、永峯菜穂子（ともに
 春恒社）
 委任状：13 通（議長委任）

須貝俊彦副会長の司会で開催され、鈴木毅彦会長の挨拶があり、定足数の確認に続いて、2023-2024 年度新評議員の自己紹介をおこなった。以降は三田村議長による議事が進められた。最後に北村晃寿副会長の挨拶で閉会となった。

I 審議事項

1. 2023-2024 年度主な役員・委員長等の決定について
 - (1) 2023 年度評議員会議長・議長代理の決定
 評議員会議長に三田村宗樹会員、議長代理に水野清秀会員を選出することを鈴木会長から提案され、賛成多数で承認された。
 - (2) 2023-2024 年度執行部会員（領域代表・常設委員会委員長）の承認

領域代表、常設委員会委員長を下記の通りすることを鈴木会長から提案され、賛成多数で承認された。

庶務委員長：山田和芳
 会計委員長：堀 和明
 編集委員長：荻谷愛彦
 広報委員長：那須浩郎
 行事委員長：池原 実
 渉外委員長：白井正明
 領域代表
 領域 1：横山祐典
 領域 2：吾妻 崇
 領域 3：里口保文
 領域 4：海部陽介
 領域 5：小荒井 衛

(3) 2023-2024 年度会計監査の決定

会計監査に藤原 治、植木岳雪各会員を選出することを鈴木会長から提案され、賛成多数で承認された。

(4) その他の委員会委員長・委員の承認

下記委員会のメンバーを鈴木会長から提案され、賛成多数で承認された

学会賞選考委員会

委員長：鈴木毅彦
 委員：齋藤文紀、久保純子、百原 新、
 小野有五

名誉会員候補者選考委員会

委員長：小岩直人
 委員：加 三千宣、兵頭政幸、江口誠一、
 前杵英明

法務委員会

委員長：奥村晃史

委員：三浦英樹、水野清秀、近藤 恵、
三田村宗樹

オンライン委員会

委員長：久保田好美

今回承認できなかった各委員会委員長および委員については、領域代表および各委員会委員長を中心に人選を進め、できるだけ速やかに臨時（電磁的）評議員会を開催して承認することとした。

また、編集委員会委員と論文賞選考委員会委員の重複についての指摘がなされ、会長・副会長を中心に方針を決定した後、評議委員に周知することとした。

2. 特別委員会オンライン委員会の2023-2024年度継続提案

水野清秀前庶務委員長より、オンラインによる

会議やシステムの重要性が増しているため、オンライン委員会の設置期限を2024年度末まで延長したい旨の説明があり、オンライン委員会内規を修正する提案がなされ、賛成多数で承認された。

内規の公表基準の確認、内容や今後の委員会の位置づけ、Zoomアカウント共有時のセキュリティについての議論をおこなった。今後、オンライン委員会の在り方について執行部会で議論を進めていただくこととした。

II 意見交換

新旧役員の交代時期のため各分掌業務の引継ぎを目的として、各常設委員会、領域における、2022年度の事業報告および2023年度の事業計画及び引継事項を示して、委員間で情報共有をはかり議論した。なお、2022年度事業報告、2023年度事業計画は、2023年大会時に開催する2023年度第2回評議員会・総会にて正式に報告及び提案する計画である。

【資料】

日本第四紀学会 2023-2024 年度役員・委員会委員等一覧

会 長 鈴木毅彦

副会長 北村晃寿 須貝俊彦

会計監査 藤原 治 植木岳雪

領域1 領域代表 横山祐典

領域幹事 阿部彩子、池原 実、久保田好美、加 三千宣、平林頌子

領域2 領域代表 吾妻 崇

領域幹事 石村大輔、奥村晃史、苅谷愛彦、久保純子、小松原純子、佐藤善輝、白井正明、堀 和明

領域3 領域代表 里口保文

領域幹事 青木かおり、卜部厚志、岡田 誠、納谷友規、水野清秀

領域4 領域代表 海部陽介

領域幹事 井上 淳、工藤雄一郎、齋藤めぐみ、中塚 武、那須浩郎、林 竜馬、百原 新

領域5 領域代表 小荒井 衛

領域幹事 石原与四郎、木村英人、前杢英明、三田村宗樹、山田和芳

庶務委員会 委員長 山田和芳

会計委員会 委員長 堀 和明

編集委員会 委員長 苅谷愛彦

広報委員会 委員長 那須浩郎

行事委員会 委員長 池原 実

渉外委員会 委員長 白井正明

オンライン委員会 委員長 久保田好美

法務委員会 委員長 奥村晃史、(常任委員) 三浦英樹、水野清秀、近藤 恵、三田村宗樹

2023 年度評議員会議長 三田村宗樹

2023 年度評議員会議長代理 水野清秀

◆菊地隆男会員のご逝去を悼む

2023年3月17日、本学会名誉会員である菊地隆男先生が逝去されました。1938年（昭和13年）7月、東京都のお生まれで享年84歳でした。

先生は1961年に東京教育大学理学部地学科地質学鉱物学専攻を卒業され、同大学大学院に進み、1962年同大学院修士課程から東京都立大学理学部助手に採用されました。同大学理学部助教授を経て、1999年に教授に昇任され、2002年に定年退職されました。その後同年、立正大学地球環境科学部環境システム学科教授として着任され、2009年に定年退職されました。この間、1977年に京都大学理学博士の学位（Pleistocene sea level changes and tectonic movements in the Boso Peninsula, central Japan）を授与されました。

菊地先生は、房総半島を中心とした南関東に分布する海成層の研究を進められ、なかでも下総層群木下層中の生痕化石、常総粘土層の研究は、最終間氷期における関東平野の古環境・古地理研究に大きな役割を果たしました。また、地質調査所（当時）から5万分の1地質図幅である『横浜地域の地質』（1982）、『東京西南部地域の地質』（1984）を共著で刊行されるなど、南関東の第四紀研究史上で重要な功績を残しました。このような野外調査を中心とした研究成果のみならず、隆起あるいは沈降と海面変化との重合において、海成段丘・海成層が如何に形成されるかのモデルを公表し、複雑な海成層の重なりがみられる南関東の第四紀地形・地質を明解なモデルで説明するという研究成果も残されました。

本学会においては、菊地先生は1971年度から2008年度まで通算16期の評議員、7期の幹事・幹事長を務められました。とくに1989年度から1992年度にかけては編集幹事、すなわち第四紀研究の編集長として采配を振られてきました。こうした研究業績や学会への貢献から2012年に名誉会員とされました。

明確な記憶にある私と菊地先生との関わりは、1983年4月の東京都立大学理学部地理学科での「地形学実習」であり、私自身は学部3年生でした。現在と異なり、本格的な地形・地質に関する実習は学部3年生までおあずけであり、ようやく直接指導を受けることになったと感じたことを記憶しています。最初に引率頂いたのは神奈川県秦野盆地の秦野断層露頭です。巡検には菊地先生の研究仲間も参加されており、終了後、付近の中華料理屋でのお疲れ会に誘って頂いたのはよい思い出です。

当時の研究室には他に、故・貝塚爽平元第四紀



退職記念行事にて、記念品の生痕化石剥ぎ取り標本を受けとる菊地隆男先生（2002年3月）

学会会長、町田 洋元第四紀学会会長、今泉俊文東北大名誉教授がおり、とても贅沢な教育環境でした。その中で菊地先生は人当たりもよく、学生にとり心理的に近い存在でした。また地質学科出身ということもあり、岩石に関しての質問のため研究室を訪ねた記憶もあります。当時の研究室の教員はそれぞれ異なる研究スタイル、学風があり、そのことが院生・学生の立場からみて刺激的でした。当初、菊地先生を房総半島の下総層群・上総層群、また堆積学・古生物学のイメージでしか捉えていませんでしたが、先に述べた先生の海面変化と海成段丘・海成層の形成モデルを目の当たりにして、混沌とした自然界をどのように単純化して概念化するかということの面白さを知ることができました。

その後、同じ学科の同僚となり、そこでは学生巡検を一緒に担当する機会が多くありました。正月明け間もない南九州の野外巡検や紀伊半島海岸線を制覇した野外巡検など、鮮明な記憶として残っています。また、この頃は房総半島のMIS3海成段丘を探索するなどして共同研究を進めることもできました。さらに相模川の砂利採取による河床変化に関する研究など、新しいテーマに取り組む姿を拝見しました。菊地先生が第四紀学会編集幹事の頃、編集委員に任命して頂き、学会運営に関わる機会をもつことができました。これが現在に繋がっていると感じています。

東京都立大学退職後は、学会等で数える程しかお目に掛かる機会がありませんでした。それでも2011年の東日本大震災をきっかけにして、1980～1990年代当時の東京都立大教員と院生が集まり旧交を温める機会が得られ、細々ながらも交流を持つことができました。

菊地先生は、自分の研究テーマを広げていく一方で、そのみでなく、学会運営という研究者に与えられた重要な仕事をこなされてきました。現在、日本社会の縮図のように会員数が減少傾向にあるのは国内の様々な学協会において共通の悩みです。一方で業務自体は増大することはあっても

減ることはありません。このような学会運営が難しくなっている時代にあって、先生のご逝去は学会にとって、大きな痛手であります。

心からご冥福を祈ります。

(日本第四紀学会会長・東京都立大学都市環境学部教授 鈴木毅彦)

.....

★★★ 第四紀学会に情報をお寄せください ★★★

日本第四紀学会では、第四紀通信のほか、メーリングリスト (ML)、ホームページ (HP) を用いて情報発信をしております。メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。

情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願いします。ML へのご投稿についての詳細は、第四紀通信 29 巻 4 号の巻末をご覧ください。HP (<http://quaternary.jp/>) でも閲覧可能です。

第四紀通信には主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報を、HP には主催・後援イベントなどのほか「公募・助成」情報等を掲載します。

詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

日本第四紀学会広報委員会

日本第四紀学会事務局

〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル

株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176